

日本代表7人 世界へ気合

ロンドン・パラ五輪 車いすバスケット



「宮城マックス」から大量選出

8月末に始まるロンドン・パラリンピックの車いすバスケットボールの日本代表12人に、宮城マックス（仙台市）から過去最多の7人が選ばれ、本番に向けて気合が入っている。代表ヘッドコーチ（HC）も同チームの岩佐義明HC（54）が務め、過去最高だった2008年北京大会の7位を上回る4強以上を目標に掲げている。

7人はアテネ、北京大会に続く3度目の出場となる藤井新悟（34）と藤本怜央（28）両選手、2大会連続の佐藤聡選手（36）、初選出の東海林和幸（36）、豊島英（23）、中沢正人（29）、増淵倫巳（35）各選手。北京同様、主将を務める藤井選手はチームの軸。藤本選手は10年の世界選手権で得点王に輝いており、得点源として期待される。

宮城マックスからは前回と前々回、藤井、藤本両選手が出場した。北京後、佐藤、豊島、増淵各選手が他チームからパラリンピック日本代表に選ばれた（左から）豊島、中沢、佐藤、増淵、東海林、藤本、藤井各選手

「4強以上を目指す」

ら加入し、チームも日本選手権で4連覇するなど強さを維持していることから今回の大量選出となった。

北京では女子を4位に導き、今回、男子を初めて指揮する岩佐HCは「速攻をはじめ自分の戦術を理解する選手が多く、本番も楽しみ」と語る。

藤井選手は「パスや選手の動くタイミングなど日本ならではの速さと緻密さを発揮したい」、藤本選手は「1試合20得点を目指す」と意気込む。初出場の東海林選手も「マックスの走るバスケットを展開したい」、中沢選手は「リバウンドをしっかりと確保する」と気合十分だ。

車いすバスケットボールには米国、オーストラリア、カナダなど12カ国が出場。予選リーグ、決勝トーナメントで頂点を争う。日本代表は8月2〜5日、角田市総合体育館で最終合宿を行い、30日の初戦（対カナダ）に備える。